

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3571500168		
法人名	有限会社 とーか		
事業所名	グループホーム とーか		
所在地	山口県周南市政所4丁目11番13号		
自己評価作成日	平成30年5月20日	評価結果市町受理日	平成30年12月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成30年6月8日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者の方に毎日笑顔で過ごしていただけるよう、明るいスタッフが、日々ケアに取り組んでいます。今日出来ていることが明日も出来るように、と残存機能を引出すよう努めながら、穏やかに安心して暮らしていただけるよう支援しています。お天気の良い日には近所を散歩し、外気に直接触れ、花を眺めたりしながら季節を感じてもらっています。できるだけ地域の行事に参加し、地域の方との触れ合いを大切にしています。また家族の方とできるだけ関わりが持てるよう、日常の様子を定期的にお知らせしたり、行事のお知らせをして参加、ご協力をいただいています。また、面会の際にはご一緒にゆっくり過ごしていただけるような支援を心がけています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は「1日1回、利用者の方に笑顔になっていただく」と理念の実践に努めておられ、面会時には「24時間生活変化シート」を家族に見ていただき、利用者の日々の様子を伝えられたり、年4回の家族会では、お花見やおはぎづくりをされているなど、利用者や家族、職員の信頼関係を築かれるように工夫して取り組まれています。食事は、昼食と夕食のメインは併設施設の厨房からの配色を利用され、朝食とご飯、汁物、副菜、デザートは事業所でつくっておられます。利用者は下ごしらえやテーブル拭き、盛り付け、下膳などできることを職員と一緒にしておられ、季節の行事食や誕生日のケーキづくり、おやつづくりなど、工夫されて、食事が楽しめるように支援しておられます。運営者は職員の意見や提案を聞く機会を設けておられ、出産後も勤務が継続できるように併設の託児室をつくれ、保育士を雇用されている他、資格取得の支援など、職員が働きやすい環境づくりに取り組んでおられ、利用者や家族との馴染みの関係づくりは安心につながっています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「惜福・分福・植福」を理念とし、職員は「1日1回、利用者の方に笑顔になっていただく」と支援しています。理念については職員会議や親睦会などの際に触れることで、常に意識できるよう努めています。	法人の理念を事業所の理念とし、事業所内に掲示している。代表者は、職員会議や親睦会で理念についてわかりやすく説明し、全職員が共有している。職員は「1日1回、利用者の方に笑顔になっていただく」と、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	避難訓練やと一か祭など、地域の方の参加が自然になってきており、地域の中に溶け込んでいると感じます。	自治会に加入している。利用者は、地域の神社の春と秋の祭りや政所来てみん祭、毎月17日には川崎観音の接待に職員と一緒に出かけている。年1回と一か祭りを開催し、地域にチラシを配布し、多くの地域の方の参加を得ている。中学生の職場体験を受け入れている。日々の散歩時に、地域の人と挨拶を交わしたり、近所の人から季節の花の差し入れがあるなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会において認知症の研修を受けた副施設長より「認知症」の講義をしたり、認知症の家族を持つ方や地域の方などがお互いの意見や体験談を話し合える場を提供できるようにしています。今年は『ラン伴』に参加しました。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	1年に1度の自己評価の機会を自分や施設の介護を見直す機会として職員全員で取り組んでいます。また各自の意見から職員個々の考えを知ることができる機会ともなっています。	管理者は評価に意義について説明し、全職員に評価するための書類を配布し、各ユニットの責任者がまとめ、まとめたものを閲覧し、職員の質問にはガイド集を基に答えている。評価を1年間の業務の振り返りと捉え、日々の業務に活かすよう取り組んでいる。前回の評価結果を受けて、事故発生時に備えての訓練や服薬支援の改善など、できることから改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を実施。会議での意見は職員会議を通じて全スタッフへ報告、活用しています。	会議は年6回開催し、現状報告、行事報告、ヒヤリハットや事故報告を行い、意見交換をしている。参加者から、消防訓練に参加しても何をして良いかわからないという意見があり、車いすの操作方法について説明を行っているなど、意見をサービスの向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員に市の担当者の方へ出席していただき、施設の運営にご理解いただくとともに、不明な点などはその都度担当の方へ質問するなどし、連絡を密に取っています。	市担当職員とは、運営推進会議の他、メールや出向いて情報交換し相談や助言を得て協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議等で連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の門扉は常時開放していますが、利用者の状態、スタッフの人員の関係などで利用者の方に危険を及ぼされると判断した場合は一時的に施錠することがあります。その際には職員間で連携し、施錠しっぱなしにならないよう努めています。身体拘束は0。転倒の危険のある方へはセンサーや鈴などを使用し拘束することの無いよう配慮しています。	身体拘束について研修や日々の業務の中で学び、全職員が正しく理解をしている。玄関は施錠していない。ドラックロックについては医師と相談し薬が減らせるように努めている。スピーチロックについても、どのように伝えれば拘束にならないかを考え実践している。気になることがあればその都度、管理者が指導している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	心理的虐待については無意識に利用者の方に精神的苦痛を与えていることがあるのではとスタッフ一人ひとりが振り返り反省することも多々あるようです。スタッフ間で注意し合えるよう努力しています		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前職員には冊子回覧で勉強してもらいましたが、定期的には実施していないので定期的に研修の場を設ける必要があると思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所決定後社長・施設長より説明、契約を行っています。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ヶ月に1回家族会を開催し、家族からのご意見、ご要望を伺っています。また面会時には積極的にコミュニケーションをとり、ご意見を頂いた際には責任者へ報告、敏速に対応できるよう努めています。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。運営推進会議、年4回の家族会、電話等で家族からの意見や要望を聞いている。毎月、家族にとーか便りや利用者の普段の様子を手紙にして家族に送付している。面会時には24時間生活変化シートを見てもらい、家族からの意見が出やすいように工夫している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の活用。社長や施設長も利用者、スタッフと食事を摂ったり、慰労会を定期的に行い、スタッフと運営者が話をし、意見を積極的に聞かれています。	毎月の職員会議や日々の業務の中で職員の意見を聞いている。管理者が気になることがあれば、個別に話を聞き意見が言いやすい関係を築いている。職員の就業環境の整備として、子育て支援に取り組んでいるなど、反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めている	職員会議の場において、今月のMVPを決定。勤務年数によりスタッフへの勤務報奨などスタッフの努力を形にして賞賛することで意欲の向上を目指しています。とーか検定を毎月実施、職員の学ぶ意欲を助長するよう努めています。希望休はできるだけ取れるよう配慮し、有休も極力取れるよう努めています。スタッフから「希望休や有休が取りやすい、急な勤務変更をスタッフ間で助け合って働ける環境」と意見有。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修は積極的に参加、できるだけ希望するスタッフに参加してもらったり、必要と思われるスタッフへ参加してもらうよう配慮しています。施設内研修も随時開催しスタッフの育成に努めています。	外部研修は、全職員に情報を伝え、希望や段階に応じて参加の機会を提供している。受講者は、職員会議時に復命報告をしている。内部研修は、年間計画を作成し、毎月の職員会議の中で、リスクマネジメント、移乗の研修、若年認知症についてなど学んでいる。資格取得についても支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	CS会議への参加など、ネットワーク作りに努めています。またグループホーム協会のブロック研修などへの参加も呼び掛けていますが、勤務の都合で参加できないことが多く、積極的に参加できるよう取り組んでいく必要があると感じています。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始にあたっては必ず面会を行い、ご利用者、ご家族より意見を伺い、情報収集に努めています。現在センター方式をもとに独自で作成したアセスメントへ徐々に移行中です。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始にあたっては必ず面会を行い、ご利用者、ご本人より意見を伺い、情報収集に努めています。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まだ入所段階にない方についてはケアマネと相談しサービス提供を支援しています		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	特に新規の利用者の方は特定のスタッフが密にかかわり、信頼関係を築けるよう努めています。「お世話になってばかりで申し訳ない」と話される利用者の方には「お互いさま」であることを伝えるような言葉かけをしています。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月お便りや状況報告書を郵送、また面会時には記録に積極的に目を通していただき、ご利用者の方を共に支えていただけるよう支援しています。また盆正月はできるだけ外出・外泊を依頼していますが、近年では外泊は困難となってきてます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	川崎観音へは昔からお接待の時には行っていた、と言われる方も多いため、できるだけお参りするようしています。お彼岸には家族の方とご一緒にお墓参りをさせていただけたらと声を掛けています。	家族の面会や親戚の人、友人、自宅の近所の人、昔の職場の人などの来訪がある他、年賀状や電話での交流を支援している。家族の協力を得て、外食や買い物、自宅帰宅、墓参り、法事、美容院に出かけているなど、馴染みの関係が継続できるように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや作業などを通じて利用者同士が関われるよう支援したり、トラブルが懸念される際にはスタッフが仲介。孤立されている方には積極的に声をかけ、他利用者の方と良好な関係が築けるよう支援しています。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院による退所の際にはお見舞いに伺ったり、退所後であつてもと一かの行事をご案内して、関係が継続できるよう努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの何気ない意見なども聞き逃さず、知りえた情報は24時間生活シートに記入し、担当者会議においてスタッフ間で共有しケアに活かしています。	入居時のフェイスシートやアセスメントシートを活用している他、日々の関わりの名kでの利用者の様子や言葉、場面などを「24時間生活変化シート」に記録し、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族からの意見を聞き、利用者本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面接にて情報を収集し、フェイスシートを作成、スタッフ間で共有しています。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の日課はありますが、本人のリズムを尊重しケアしています。ご本人の心身状態をスタッフ間で申し送り、残存機能の維持に努めています。また最近では高齢化、身体状況の低下も著明であることも考慮し、無理のないよう過ごしていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月担当者会議を開催、計画の変更の必要な方について検討しています。協力病院の医師、家族へは随時報告、意見を伺い計画に反映するよう努めていますが、家族の意見を伺うタイミングについて今後改善が必要であると考えます。	本人や家族の意向を聞き、主治医の意見を参考にして、毎月の担当者会議で話し合い、介護計画を作成している。3カ月毎にモニタリングを実施し、1年毎に見直しを行っている。他、利用者の状態に変化があった場合は、その都度見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康管理表を作成し、食事摂取量や排泄・入浴状況など個別に記載しています。また24時間生活シートを活用し、何気ない言葉も記録してケアに活かせるよう努めています。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力病院のDr. を中心とし、訪問看護も活用しながらのターミナルケアの実施。インシュリン摂取の利用者の方対応マニュアルの作成、実施。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	推進委員には市役所の職員、民生委員の参加もあり、会議の際に情報交換を行っています。また年2回の避難訓練の際には消防署の協力を頂いています。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医についてはご利用者、ご家族の意思を尊重しています。受診の際には基本は家族へ依頼、必要に応じて送迎など支援しています。緊急時には協力病院へ連絡、受診、往診とご協力いただいています。	協力医療機関の他、本人や家族が希望するかかりつけ医に、家族の協力を得て受診している。必要時には「介護と医療の情報連携連絡票」を使い、医療連携に努めている。緊急時には施設長の協力を得て、かかりつけ医に指示を仰ぐ他、救急搬送にて対応をしているなど、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月1回の契約医の定期往診時に相談報告をするようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的にご家族へ連絡をし近況を伺い、できるだけお見舞いに伺い状況把握に努めています。入院時に身体機能、認知度などに著明な変化の低下が見られたときには施設での様子などを説明し、退院がスムーズにできるよう配慮しています		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアへの移行が予測される方については医師、家族を交え担当者会議を開催、家族ご本人の意向を踏まえ方針を決めています。	契約時に重度化や終末期について指針に沿って、事業所でする対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、入院や他施設への移設も含めて、医師や家族と相談して方針を決め、職員間で共有し支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故報告書、ヒヤリハットを活用し、職員会議において検討、再発防止に努めています。特に服薬に関しては間違えることの無いよう、服薬介助時の声出し確認、複数人でのチェックなど気をつけています。研修が定期的になく実践力が身につけておらず不安との意見有。課題。	ヒヤリハットや事故が発生した時には、「介護事故・ヒヤリハット報告書」に記録し、その場にいる職員で再発防止策について検討し「ケア日誌」で職員間の共有を行い、職員会議で再度検討している。必要に応じて介護計画に反映している。緊急時の対応について研修を行っているが、全ての職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員を対象にした応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施しています。火災時には近隣住民の方にご協力をいただいています。地震、水害への対策についてはマニュアルを作成し、昨年訓練を実施しましたがスタッフの中には緊急時の不安を抱えているスタッフが多いようなので研修のあり方を検討する必要があると感じています。	年2回、消防署や地域の人の協力を得て、昼夜想定で、通報、消火、避難訓練を実施している。地震や水害についてはマニュアルを基に研修を行い、公共の避難場所に移動が困難なため、同一敷地内にある他の建物の2階への避難を検討し、実施している。地域の高齢者の受け入れも話し合い、地域との協力体制を築いている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の方を人生の先輩と敬い、接するように心掛けていますが、馴染みの関係となることでつい親しみをこめた口調となることがあり、注意が必要な場合はスタッフ間で注意し合える環境作りを目指しています。	利用者を人生の先輩として敬意を払って接し、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。気になることがあれば職員間で注意し合い、理念に沿ったケアができるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者個々とのコミュニケーションの特徴をスタッフ間で共有し、日々の介護に活かせるよう努めています。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ行事に参加してほしいとあの手この手で声をかけることがあります。また現状としてスタッフ側の都合を優先してしまう場面も多々ありますが、できるだけお一人おひとりのペースを大切にしよう心掛けています。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装についてはご自分で選べる方には選んでいただき、ご自分では困難な方については同じ服にならないよう配慮しています。女性には行事の際にはお化粧品をしていただくなどおしゃれを楽しんでいただきたいと支援しています。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や後片付けなど、出来る方が限られてはいますが可能な限り手伝っていただいています。食事はスタッフも一緒にいただき、会話を楽しみながら楽しい雰囲気作りに努めています。また旬の食材や季節行事、誕生日メニューなどの行事食をできるだけ取り入れてより楽しい食事となるよう努めています。	昼食と夕食の主菜一品は、併設施設の厨房で調理したものを利用し、朝食と御飯、汁もの、副菜、デザートは事業所で調理をしている。献立は栄養士が作成している。利用者は野菜の下ごしらえ、盛り付け、テーブル拭き、下膳、食器拭きなど、できることを職員と一緒にしている。おやつづくり(ホットケーキ、おはぎ、あんみつ、芋もちなど)、季節の行事食、誕生日のケーキづくり、家族との外出など、食事が楽しめるように工夫し支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下困難な方が増えてきているので、刻み食、お粥、ミキサー食などそれぞれにあった形態で食事を提供しています。水分摂取には特に気をつけ、必要な方については水分量のチェックを行っています。献立は管理栄養士が作成。月に2回体重測定を行い体重の増減のチェックをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、入れ歯を使用されている方については夜は洗浄剤を使用し清潔に努めていますが年々口腔ケアを行うことが困難な方が増えているのか現状であり、課題です。 必要があれば随時歯科受診を支援しています。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツは極力使用せず、お一人おひとりの排泄パターンに沿ってトイレへ誘導。最近では失禁をされる方が多く、ほぼ全員の方がトイレへの声掛けを必要とされています。	24時間生活変化シートを活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、声かけや誘導をし、トイレで排泄が出来るように、自立に向けて支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、冷たい牛乳やオリゴ糖の使用、腹部マッサージなどできるだけ薬に頼らない排便を目指していますが便秘の方が多いためが現状です。長期間排便のない方については協力医、看護師へ随時連絡し、指示を仰いでいます。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には毎日の入浴ですが、個々の状態に応じて対応しています。できるだけご希望に添えるよう配慮していますが、水虫等の疾患のためこちらで順番を決めさせていただく場合もあります。	入浴は毎日、14時から15時と15時30分から17時30分まで可能で、利用者の希望や体調に合わせて入浴が楽しめるように支援している。入浴をしたくない人には、時間をおいて再度声かけをしたり、職員が交代して対応するなど工夫をしている。体調に合わせて清拭で対応することもある。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はできるだけ起きていただき、夜間十分な睡眠がとれるよう努めていますが、ご利用者の高齢化に伴い日中横になることを希望される方もおられますので、その際には夜間の睡眠に影響が無い程度で休んでいただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を作成し活用しています。副作用については特に注意が必要な場合は職員会議の席などでスタッフ全員に周知できるよう努めています。薬が度々変更する方において、把握するのに時間がかかる場合があるとの意見があったことから、人目で把握できる工夫が必要であると感じました。課題として取り組みます。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドリルや手伝いなどの役割をお願いするなど、張り合いを持っていただけるよう支援しています。またレクリエーションや季節ごとの行事などで季節感を感じていただくよう努めています。年に1回のと一か祭ではユニット毎や個人での出し物をステージで発表します。	テレビ視聴(時代劇、歌番組、相撲、高校野球)、DVD視聴、計算ドリル、漢字ドリル、ぬり絵、工作、折り紙、風船バレー、キャッチボール、輪投げ、習字、季節毎の作品づくり、歌を歌う、ラジオ体操、口腔体操、棒体操、モップかけ、タオル干し、洗濯物たたみなど、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、利用者が生き生きと過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事で遠くへお出掛けや外食に行くときなどはご家族にもできるだけご参加いただいています。又歩行困難な方でも車イスを使用し散歩へ出るなど、外気にできるだけ触れていただくよう支援しています。	散歩や観音様の接待、スーパーへの買い物、ドライブ(菖蒲、芝桜、藤、紅葉、鯉のぼり、クリスマスツリー)、家族会が主催で花見に出かけたり、家族と協力して日常的に外出ができるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理されている方は少なくほとんどお預かりしています。金銭出納表にて管理し、定期的にご家族の方に確認いただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	母の日にはご家族にカードを書いていた だき、皆様大変喜ばれています。家族の方 からの電話の取次ぎやご本人が希望され たときに電話をかけるなど出来る限り支 援していますが、帰宅願望の強い方に対 してご家族の方と相談して電話のルー ルを決めているのでお断りさせていただ くこともあります。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、 食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にと って不快や混乱をまねくような刺激(音 、光、色、広さ、温度など)がないよう に配慮し、生活感や季節感を採り入れ て、居心地よく過ごせるような工夫を している	生花・カレンダー・壁面を季節感のある 作品で飾ったりしています。清掃には 気を配り、ご利用者、来所者が不快な においなど感じないように努めていま す。室温、湿度に気を配り、窓の開閉 、エアコンなどを使用し調整してい ます。	ホールには自然の光が差し込み、季節 の花を生け、季節に合わせて壁面を 飾り、季節が感じられるように工夫 している。テーブルや椅子、テレビソ ファーを設置し、利用者が思い思い の場所でくつろげるように居場所を つくっている。台所からは、調理の 音や匂いがして、生活感を感じること ができる。温度や湿度、換気、音、 光に配慮をして、居心地良く過ごせ るような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、 気の合った利用者同士で思い思いに 過ごせるような居場所の工夫をして いる	ソファーや和室、廊下の椅子、玄関 のテーブルと椅子などゆっくりと過 ごしていただく場所の工夫をして います。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人 や家族と相談しながら、使い慣れた ものや好みのものを活かして、本人 が居心地よく過ごせるような工夫を している	写真や思い出のあるものを居室に 置いて頂いています	椅子、テレビ、飾り棚、観葉植物 などを持ち込み、家族の写真、自 分で作った作品、誕生日のお祝い の色紙などを飾って、居心地良く 過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できる こと」や「わかること」を活かして、 安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	下駄箱に名前・たんすには何がしま ってあるか書くことで、できるこ とはできるだけご自分でしていただ くよう支援しています。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム とーか

作成日: 平成 30 年 12 月 17 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	緊急時の対応などの実践力の強化	緊急時の対応など、スタッフ全員が同じ対応ができるようになる。	緊急時の対応、ケガの処置の対応等、全職員を対象とした研修を実施する	1年
2	14	研修の場をもっと活用したい。	スタッフのスキルアップを目指す。	研修参加者からの復命。有資格者を講師にしての研修の実施。毎月の研修の有効活用。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。